

資産運用レポート：株式市場で資産を築くために

1. はじめに

世の中には、本当に株式投資の上手な人がいます。

彼らは「血のにおいをかぎつけるような、先天的な臭覚」みたいなものを備えています。ある意味で、特殊な才能をもっているのです。

また「人生のすべてを相場に賭けている」投資家も少なからず存在します。サラリーマン社会に適応できなかったなどの理由で、マーケットを生活の糧にしている人たちです。

私たちは、組織力ではかなわない機関投資家に加えて、こういった海千山千のセミプロ連中を相手にしています。

そんな中で、ごく普通の個人投資家が、株式市場で資産を築くためには、どのように行動すればいいのでしょうか。

今回の資産運用レポートでは、資産形成という大きなテーマを取り上げます。

★TOPIX ロングチャート（1995年～）



(出典：BigCharts.com)

私が投資をはじめてからのTOPIXの推移です。

2. 山あり谷ありの17年間

私の旧作『超特価バリュー株「福袋銘柄」で儲ける週末投資術』や『株価4倍「割安成長株」で儲ける収益バリュー投資術』を読まれた方は、次のように思われたはずですよ。

なんだ、著者はごく普通のサラリーマン投資家じゃないか。このやり方なら自分にも実践できそうさ。

そのとおりです。2006年以降、苦戦しているように、難しい相場でリターンを稼ぎ出すほどの腕前は持ち合わせていません。

下の表をご覧になれば、投資をはじめてから17年間のパフォーマンスは、けっこう凸凹していることが一目瞭然ですよ。

では、私のような普通の個人投資家でも稼ぐことができたのは、どういった状況でしょうか？

★私のパフォーマンス

年	私	TOPIX	JASDAQ
1995	34.3%	1.2%	-11.1%
1996	14.2%	-6.8%	-13.0%
1997	-23.4%	-20.1%	-41.2%
1998	-0.2%	-7.5%	2.0%
1999	194.1%	58.4%	244.5%
2000	-40.1%	-25.5%	-44.3%
2001	-5.1%	-19.6%	-12.9%
2002	-14.1%	-18.3%	-18.5%
2003	46.8%	23.8%	75.4%
2004	37.0%	10.2%	33.8%
2005	98.1%	43.5%	44.1%
2006	-0.5%	1.9%	-33.8%
2007	-1.4%	-12.2%	-16.3%
2008	-22.9%	-41.8%	-33.2%
2009	4.4%	5.6%	0.3%
2010	-0.3%	-1.0%	8.1%
2011	-2.8%	-19.0%	-10.8%

注：2011年は11月末まで。2002年以前は概算につき、参考程度に見てください

3. やさしい相場で稼いでいる

自分自身のパフォーマンスからいえることが、ふたつあります。

ひとつめは、17年のうち、稼いでいる期間の方が短いことです。

- 1995～1996年
- 1999年
- 2003～2005年

ふたつめは、私の稼いでいる期間とTOPIXのロングチャート（1ページ）を突き合わせれば分かります。

- 1995年半ばから1996年半ばにかけて、TOPIXが1200ポイントから1700ポイントまで上昇している
- 1999年はITバブルにより、いわゆる「勝ち組」銘柄の株価が急騰した。
- 2003年から2005年にかけては、近年まれに見る好景気により全面高となった

つまり、TOPIXが1年以上にわたって大幅に上昇する「やさしい相場」にて稼いでいるのです。このような展開では、売買のタイミングを多少間違えても勝つことができます。

一方、2006年以降、パフォーマンスが冴えないのは、ボックス圏での展開が続いているからです。大きく稼げる局面が見当たらず、お手上げの状態です。

★TOPIX 週足チャート（2009年5月～）



このようなボックス圏相場で稼ぐのは、意外と難しいです

4. 凡人が株式市場で資産を築くには

結局、ごく普通の個人投資家が株式市場で資産を築くには「戦う時期と場所を選ぶこと」に尽きると思います。

キーワードは、次の2つです。

- 時を知る
- 勝ち逃げ

4-1. 時を知る

まずは、時を知ることです。

仮に、2007年夏以降から2009年春にかけての下げ相場を買い向かえば、どうなったでしょうか。損切の嵐となるか、塩漬けで身動きが取れなくなるかのどちらかです。

2009年春からのボックス圏相場にしても、売買の達人でない限り、儲けるのは難しいはずですが。

そういった難しい相場には手を出さずに、やさしい相場を待つことです。

4-2. 勝ち逃げ

一番のポイントは、勝ち逃げができることです。

やさしい相場では、普通の個人投資家でも儲かります。すると、儲け話が伝わり、普段は株式投資に興味を示さない層までが参戦してきます。

マーケットが過熱した状態になれば、後は反落するしかありません。

下がりはじめた初期の段階で、見切りをつけ、次のやさしい相場を待てる「勝ち逃げができるかどうか」が明暗を分けます。

私の場合、2006年2月に不動産流動化銘柄を売り切ったまでは良かったものの、待つことができず2008年秋のリーマンショックに巻き込まれてしまいました。

まだまだ、勉強不足です。

5. やさしい相場とは

先ほどから「やさしい相場」という言葉が何度か登場しています。

やさしい相場とは「TOPIXが1年以上にわたって大幅に上昇する」局面ですが、予兆のようなものはあるのでしょうか。

5-1. やさしい相場の判断

マクロ経済分析とテクニカル分析を組み合わせれば「そろそろ、やさしい相場になるかもしれない」という判断をある程度は行うことができます。

まず、金利や景気などマクロ経済の分析を行います。次の2つが前提条件です。

- 金利水準が低いこと
- 景気が底打ちしていること

最終的には、テクニカル分析で判断します。株式市場は、経済学の理論どおりに動かないからです。

- 上昇トレンドに転換していること
- ボラティリティが低いこと

★VIX ロングチャート（1999年～）



ボラティリティはVIX（恐怖指数）にてチェックできます。一般論として、次のことがいえます。

- 30以上・・・投資を避けるべき時期
- 20～30・・・様子を見る時期。せいぜい、打診買い程度
- 20未満・・・大きなポジションを取れる時期

5-2. 先のことは分からない

以上のように、マクロ経済分析を行い、チャートを見て「もう、買ってもいいかな？」と判断するしかないのですが、当然ながら先のこと（上がるか下がるか）は分からないものです。

「そろそろ、上がりそうだ」と買いを入れてみたところ、その時点から反落することも少なくありません。

上昇トレンドに転換しても、たった3か月で終わるのか、1年以上も続くのか、見当がつかないのです。今年3月の東日本大震災のように「それはないよ～」といった終わり方もあります。

私たちにできるのは、リスクコントロールに細心の注意を払いつつ、相場のトレンドについていくだけです。もし、上昇相場が短期間で終わってしまった場合は、ほとんど利益が取れなくても、いったん撤退するしかありません。

逆に、問題なのは「長期投資だから」といって、含み損を放置して、そのまま塩漬けにしてしまうことです。2008年のような厳しい下げ相場では身動きが取れなくなります。

長期投資といっても、やっていることは短期の積み重ねです。

★TOPIX 日足チャート（2010年10月～2011年3月）



2010年11月頃から上昇トレンドに転じたものの、2011年3月の東日本大震災によりあっけなく相場が終わってしまいました。75日移動平均線を維持しており、4月は高いという例年の期待もあったことから、震災前に逃げ切るのは難しかったはずですが。

「こんな年もあるさ」と割り切りましょう。

6. アセットアロケーション

アセットアロケーションに関しては、著書『資産運用の強化書』に書いたりしましたが、現時点での考えを述べます。

個人投資家に必要なアセットクラスは、2つだけです。

- 現金
- 株式

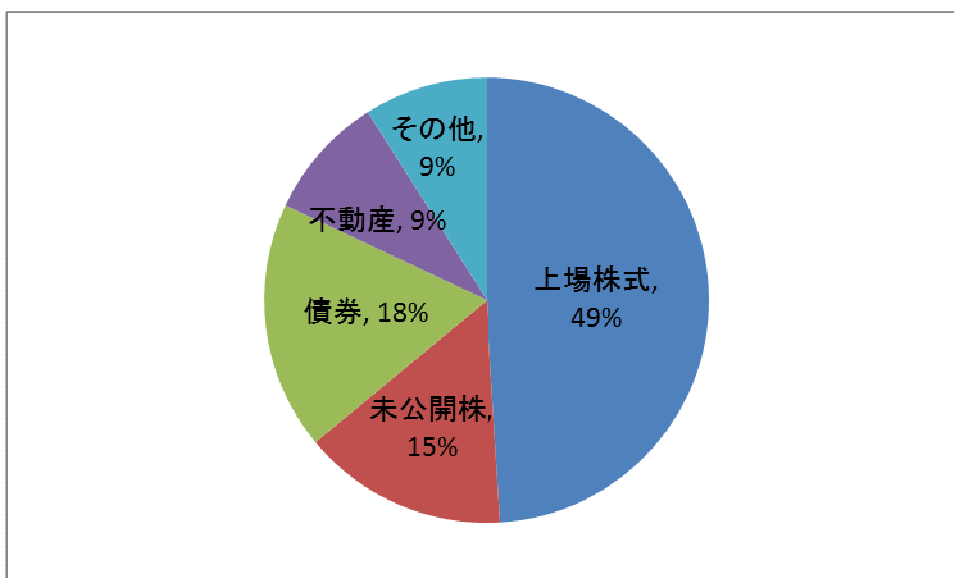
次のような、他のアセットクラスは不要です。

- 債券
- リート
- 商品

要するに「リスクを取るか、取らないか」を考えてください。

やさしい相場であれば、株式の組入れを増やすべきでしょう。逆に、難しい相場なら、現金のまま待機することになります。

★カルパースのアセットアロケーション



注) その他の内訳は、現金、インフレ連動資産、絶対リターン追及投資など。2011年8月末現在

年金基金のように「常に投資していること」を要求される機関投資家にとって、アセットアロケーションは有用です。「戦う時期と場所を選べる」個人投資家には、そこまで必要ありません。

7. おわりに

林則行氏は『波乱の時代を生き抜く 迷いのない株式投資法』の最終回で次のように述べています (<http://www.nikkeibp.co.jp/article/mon/20110209/82170/?ST=mon>)。

短いながらも「ごく普通の個人投資家が、株式市場で資産を築くためのノウハウ」が凝縮されている言葉です。

投資の仕事は相場が相手ですから、毎年同じようなリターンが得られるわけではありません。10年単位で市場の流れを見ると、そのうち数年間は大きな相場の波が1回はやってくるので、その時に世の中を大きく変えるような銘柄に投資して果敢に移ぎます。人によっても違うでしょうが、資産は最低2~3倍になり、10倍以上になることも珍しくありません。成功すれば、他の中リスク、中リターンとは比較にならないほどの収益が期待できます。

株式投資について勉強を続けていると、いつの間にか「何か買いたい。持ちたい」という意識が先行してしまいます。

高度成長期は、そのようなやり方が正解でした。しかし、デフレ時代において「意味のないバイ・アンド・ホールド」を続ければ、塩漬株だらけで、やがて身動きが取れなくなります。

個人投資家には「戦う時期と場所を選べる」利点があります。

常に「今、買ってもしいいやさしい相場か」「この銘柄を持っている意味があるのか」自問自答する習慣をつけるようにしてください。

そういった行動を続けることにより、将来的に大きな成果を得られる日が、きっと訪れるでしょうから。